

育林費用比較表 ・ ・ 改植した苗木にヘキサチューブを被せる

不成績造林地の再生法の比較 (チューブ法と従来法)

チューブ法

従来法 (防護柵使用)

地拵費	540,000	27人/ha
苗木代	120,000	1500本/ha ヒノキ@80
植栽費	240,000	12人 1500本/ha植栽
食害防護費 ヘキサチューブ	2,065,000	資材費 設置費を含む
初期コスト計	2,965,000	
下刈費	0	
補修見廻費	120,000	6人 2人/年 3年間
除伐 (豊切と兼ねる)	80,000	4人 2人/ha 2回
間伐	60,000	3人 1回
管理コスト計	260,000	
計	3,225,000	

地拵費	540,000	27人/ha
苗木代	240,000	3000本/ha ヒノキ@80
植栽費	400,000	20人 3000本/ha植栽
食害防護費 防護柵	904,700	資材費 設置費を含む
初期コスト計	2,084,700	
下刈費	860,000	43人 1年目5人 2年目8人 3年目以降10人 5年
補修見廻費	200,000	10人 2人/年 5年間
除伐費 (豊切と兼ねる)	360,000	18人 1回目7人 2回目6人 3回目 5人
間伐費	360,000	19人 1回目7人 2回目6人 3回目 6人 3回目 6人
管理コスト計	1,780,000	
計	3,864,700	

ヘキサチューブ設置歩掛 75本/日
資材セット単価 @1100 として
ただし 人件費20,000円/人・日として計算

防護柵資材 設置費 ・ ・ 当社調べによる
ただし 人件費20,000円/人・日として計算

(注)

- 対象地は、新植後野生動物による食害を受け数年経った造林地
- 上記コスト比較は、全ての苗木が食害を受けたものと仮定
- 対象地に対して、保育事業により獣害防除を実施
 - チューブ法 ・ ・ 改植を行ない、苗木にヘキサチューブを被せる
 - ネット法 ・ ・ 改植を行ない、防護柵で造林地を囲む

(ポイント解説)

チューブ法	従来法
改植本数は1500本/haまで 活着が良いので、植栽本数が半減できる	改植 ・ ・ 3000本/ha
設置後の下刈は不要 チューブ設置後の初期成長が早い	下刈は5年は必要 期間は延びる可能性あり 下刈時の誤伐も発生
除伐 間伐は計3回で終了 植栽本数が最初から少ない	従来通りの除間伐が必要